

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国公民科・社会科教育研究会

(代表者 上 村 肇 会員数 約1,000人)

T E L 03-3333-7771

1 前 文

出題内容は、高等学校学習指導要領（以下「学習指導要領」という。）に掲げられた教科・科目のねらい及び内容におおむね即しており、基礎・基本を重視したものとなっている。いわゆる奇問・難問とされる問題は見られず、高校生が学習した知識や涵養した思考力に基づき、考えて解いていく工夫が施されている標準的な問題である。ここでは後期中等教育を与る現場からの意見と評価を申し述べる。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等

「倫理」と「政治・経済」ほぼ半分ずつの出題ながら「倫理」が難化し「政治・経済」が易化しているように見える。基礎的基本的な知識を問うものから資料の読解や思考力判断力を問うものまで幅広く問われ、学習指導要領に沿った無理のない出題が多い。ただし、教科書の範囲を超えているものや、高等学校では学ぶことが少ない専門的な知識や内容も見られる。リード文はよく考えられたものである一方、各問との関連が希薄だったり、雑多な小問の寄せ集めのように高校生には受け取られかねない大問の構成だったりして、出題者の意図が十分発揮されていない問題もあるように見受けられる。「倫理」や「政治・経済」は系統だてた学習に重きを置くことも出題に際し考慮されてもよいかと思われる。「倫理」においては8択問題など平均点を下げる意図を感じさせる出題もあり、適切かどうか再考をお願いしたい。4択には出題者のメッセージが込められており高校生がそのメッセージを考えることも大切な学習だと考えるからである。厳しい条件の下での問題作成作業を承知の上で、さらなる良問の作成をお願いしたい。

第1問 格差や不平等をどうするかという会話から考える。多面的多角的な視点から問題を分析する手法は納得できるが、合意形成を見いだせる展開とした方が「倫理」の科目の内容や目標に沿ったものとなる。

問1 遺伝子の応用技術をめぐる問い。選択肢を丁寧に読み考える問いである。

問2 防衛機制についての基礎的基本的な知識を問う。

問3 『税と正義』を読み、内容を正確に把握できるか正確な読解力と思考力、判断力が求められる。モノを考える基礎訓練を日ごろから取り組んでいるかが問われた。

問4 グラフの読み取りと比較的長い説明文を正しく読み取る力が問われた。論理的思考力を問う。

問5 コミュニタリアニズムについては新しい学習内容である。サンデルの考えに親しんでいれば容易だ。

第2問 喜びについての文章を読み、さまざまな思想を渉猟する。

問1 和辻哲郎が日本の神をどう捉えていたかを問う。選択肢にちりばめられたキーワードを理解していても正答は難しい。

問2 仏教思想から煩惱や苦について問う。無自性は難しい。三毒、四苦八苦などかなり詳しく尋ねられており難しい。

- 問3 親鸞についての深い理解が求められた問いである。
- 問4 室鳩巢を知る高校生は少なく、資料読解の問いとはいえ、易しくはなかったのではないかと。丁寧に読めば正答は得られると思われる。
- 問5 孔子の礼について基礎的基本的な知識を問う。
- 問6 武者小路実篤に関する内容理解の問い。文学史や文化史の知識を援用して考えたり、坂口安吾や小林秀雄などを想起して消去法で正解を導いたりした高校生も多いだろう。
- 問7 リード文の趣旨を汲み取る読解力の問い。選択肢とリード文を比較して内容が合うか否かをつぶしていけば正答は容易である。
- 第3問 時間をめぐる西洋近代思想の展開を追う。思想史学習には参考になるリード文である。
- 問1 イエスの教えについての基礎的基本的な知識を問う。
- 問2 ルネサンスの文学や芸術を問うが世界史の知識を援用して正答を得ることになるか。『カンツォニエーレ』がペトラルカと知っていれば平易だが「倫理」の授業でそこまで学習することは少ない。
- 問3 カントの認識論についての理解を問う。「対象が認識に従う」ことで正答は容易。感性与悟性の形式については判断に迷う高校生は少なくなかったかもしれない。
- 問4 イギリス経験論についての基礎的基本的な知識を問う。
- 問5 ハイデガーについて問うがサルトルが分からないと正答は難しいのではないかと。
- 問6 先哲の思想について基礎的基本的な知識を問う。
- 問7 リード文の趣旨に合致したものを選ぶ手堅い出題である。内容の要約になっており読解力を問う良問である。
- 第4問 主権国家を主題としたリード文を読み、政治分野と経済分野の融合問題を解く。資料問題二つあるが、難易度は標準である。
- 問1 ボーダン『国家論』は正答率は高いと思われるが高等学校「政治・経済」の学習の範囲は超えている。単純な知識を問うことになってしまい、出題に工夫が欲しい。
- 問2 EUを参考にAFTA、MERCOSUR、NAFTAを加盟国数、人口、GDPの三つの情報から正しい組合せを選ぶ。地域統合を加盟国数、人口、GDPから推し量る間ではあるが、受験者からすれば地域統合の数字を暗記すればよいと誤解されてしまう危険がある。
- 問3 金融政策の基礎的基本的な知識を問う。景気や物価の動向と対応など幅広い視点から正誤判断を求める良問である。
- 問4 ギリシャ財政危機を題材にして、ギリシャと日本の政府の対外債務残高比較を問う。日本の財政危機を視野に入れた良問である。
- 問5 基本的人権についての理解を分類作業を通して確認する思考力の問いである。
- 問6 意思決定に関して、国会議員の除名、憲法改正、内閣不信任、条約の承認について問う。
- 問7 地方自治について基礎的基本的な知識を問う。
- 問8 1980年代と2000年代における日本の改革についての基礎的基本的な知識の問いである。1980年代の改革は高校生にとっては歴史のことなので出題者が平易と思うほど高校生には易しくなかったかもしれない。
- 第5問 民族紛争を主題とした示唆に富むリード文で高校生にとっては学習の指針ともなる秀逸な文章である。
- 問1 空所補充によりリード文で描き出そうとする世界を完成させる問い。単に知識を問うの

ではなく、読解力も含めた総合的な学力を見ようという意図が感じられる。多文化主義や民族自決など平易ながら意味のある問いである。

問2 民族紛争の具体例を問う。基礎的基本的な知識を問う。具体例と内容の組合せに加えて地図を示しておおよその位置もあわせて確認させるなど、平易であってももう一工夫あってよい。空間概念を問うことは公民科であっても重要だ。

問3 難民に関する基礎的基本的な知識を問う。正答となるノン・ルフールマンの原則だけでなく難民条約全般への配慮がある出題である。

問4 今日の日本が抱える労働問題について基礎的基本的な知識を問う。ワーキングプア、外国人労働者、過労死、非正規労働者いずれも重要な時事的事象である。

問5 マスメディアについての基礎的基本的な知識を問う。メディア・スクラムという用語は資料集には掲載されていても教科書の記述は多くないかもしれない。

第6問 市場機構と政府の役割に関する文章を読み、幅広く考えさせていこうという趣旨が伝わる。

問1 需要供給曲線の理解を問う平易な問い。図を示さなくても解ける内容となっており、図を用いて考える問いとなるようにもう一工夫欲しい。

問2 世界の社会保障制度についての基礎的基本的な知識を問う。

問3 公共財の特徴を非競争性と非排他性に着目して考える問い。経済分野の学習を通して思考力を身に付けているかが問われた。高校生にとっては易しくはないが考えることの大切さを伝える重要な問である。

問4 NPOについての問い。知識として覚えていなければとみなすと難しい問いだが、日ごろの高校生活においてボランティア活動に参加していれば経験に照らして考えれば平易な問いであり、高校での幅広い学習活動を求めているとも受け取れる示唆的な問いである。

問5 日本の地方財政についてグラフから考えさせる良問だ。知識としては基礎的基本的ながら思考力を問う工夫が施されている。